

鉄砲隊の道具 2

『武器図説』のこの図は、次のものを描いている：

- (1) 火縄銃の弾を銃身から取り出したり（誤射など）、銃身に残った火薬を取り除いたりするための長い道具
- (2) 銃弾や火薬を押さえるためのラムロッド
- (3) 火薬と火縄銃の弾をあらかじめ計量して紙や竹の筒に入れ、素早く装填できるようにした「早合」を携帯するための装弾ベルト。このベルトは、火薬の装填や発射の際に、砲手の袖が邪魔にならないようにするためのものである。

下の展示ケースには、竹製の早合の薬莢も展示されている。早合は、すぐに開けられるようにストッパーや紙で封をしたもの。竹筒は再利用できるが、紙だけでできた使い捨ての早合もある。

下の展示ケースには、「松本玉薬方」と書かれた火薬箱など、歩兵が携行した道具が展示されている。各鉄砲隊には火薬や弾丸を運ぶ兵士がいた。箆笥は背中に背負うことができるように、側面にある鉄の輪に縄を通し、背囊のように背負うことができるように工夫されていた。